

繫離船作業の安全対策

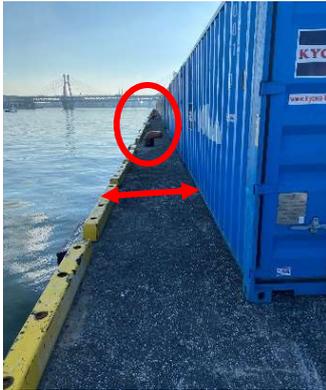
日本繫離船協会

(1) 現状と課題

1. 離着岸の補助（タグボート、繫離船作業）は、港湾に要求される機能。
安全で合理的な繫離船作業は、港湾の機能向上につながる。
2. 係船索の切断事例は減少していない。退避行動により人身事故を防いでいる。
3. 安全問題検討会が設立され、港湾局からの働きかけにより、各地の港湾において設備の改善が図られるようになった。
4. 国総研資料に、繫離船作業の安全性向上への配慮事項として港湾設備との問題がまとめられた。
今後継続して、港湾を整備する港湾管理者に認識いただくことが重要。
5. 津波対策、港湾強靱化及び気候変動における海面上昇において新たに検討される対策においても、現場の作業者の意見を取り上げていただくことが重要。
港外避難時の綱放しも難しい作業であることを認識いただく必要がある。
6. I M Oに働きかけ、世界的に繫離船作業の安全対策に取りかかり、S O L A S条約に盛り込まれることとなった。
SOLAS 条約 2024 改正で、係船作業の安全対策が施行された後の動向に注目。
係船索の強度アップの影響 老朽化した係船索の排除
係船柱の大型化、係船索の大径、重量増
P S Cの安全指導への期待（安全基準の明確化）
7. 地方において、協会支部と整備局の意見交換を行うことは重要。
運輸局のP S Cへの情報提供も重要。

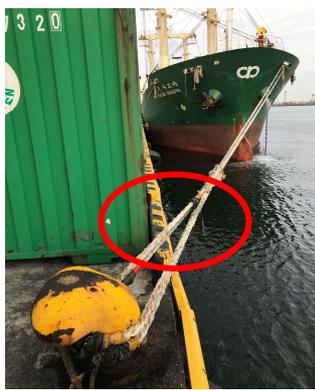
(2) 岸壁設備等の危険事例

①



作業スペースが狭い

②



作業中に船員の動きが見えない

③



工事につき、障害物が多数

④



破断した係留策を再利用

⑤



破断した係留策を結んで再利用

⑥



形だけの岸壁照明カバー①

⑦



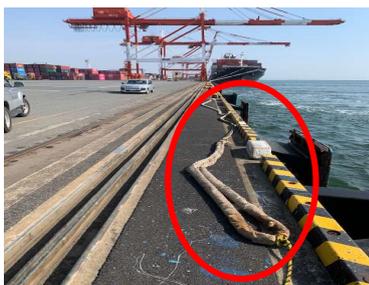
形だけの岸壁照明カバー②

⑧



岸壁照明の破損

⑨



破断で残された係留策

⑩



破断で接触した岸壁照明カバー

⑪



根本が劣化もあって破損

⑫



防舷材の経年劣化 ①

⑬



防舷材の経年劣化 ②

⑭



劣化部分に係留策が引っ掛かる

⑮



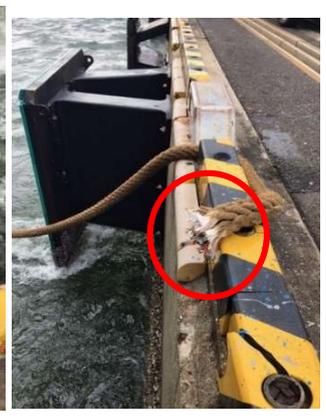
⑯



⑰



⑱



出港作業時に船員が離岸のタイミングで係留策を伸ばさずに、防舷材の劣化部分に食い込み、本船と代理店がこの状態で出港不可能と判断して、係留策を切断して出港

⑲



大型船同士の相取りビット①

⑳



大型船同士の相取りビット②

大型船同士の相取り（中抜き・ケンカ取り）は危険リスクが高く、片方が出港する場合に出港しない係留策がビットから外れる場合がある。